

講義名	専門基礎演習(人)			授業形態	
担当教員	魚田 尚吾	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 1時限	単位数	2

履修開始年次 2年生 ナンバリング・コード SEM240

主題と概要

1年生の「自己発見とキャリア開拓」などの基礎的な科目の学修の発展科目として位置づけ、社会人基礎力に必要なビジネスマナー・文書、パソコンスキル、プレゼンテーション能力などを身につけます。また、コミュニケーションワークを通して、学科学生相互の交友関係を抜けます。さらに、人間健康学科の演習テーマの基礎を学び、2年生後期から始まる研究演習(ゼミ活動)へと繋げます。

到達目標

グループワークやディスカッションを通して、仲間と協力して活動できるようになる。
ビジネスマナーを身につけるために、言葉遣い、メール送受信、および簡単な文書作成ができるようになる。
レポート作成やプレゼンテーションを通して、学んだことを分かりやすくまとめて、伝えることができるようになる。
毎日の学修目的に応じた研究演習(ゼミ活動)を選択できるようになる。

提出課題

課題の内容や作成形式等の詳細については各担当教員が授業中に示しますので、各教員の指示に従ってください。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

各回の課題に対して、講評を行います。必要に応じて、個別対応を行います。

評価の基準

受講態度等の平常の取り組み姿勢および課題提出物や発表の内容等による総合評価を行います。

履修にあたっての注意・助言他

出席講義のため、受け身ではなく、積極的な取り組みが期待されます。
出席講義のため、出席は講義よりも重視されます。やむを得ない理由で欠席する場合は、事前に担当教員と相談してください。
遅刻は、講義開始後10分以内とし、2回遅刻で1回の欠席とします。
授業の1/3(計5回)以上を欠席した場合は評価対象外となります。

教科書

・使用しない。

参考図書

・なし。

その他

週宣、資料を配布します。

受業計画

1. 全体ガイダンス、研究演習(ゼミ活動)とは
2. 研究演習(ゼミ活動)へのいきなり
3. スポーツ・運動施設
4. 健康づくり学
5. 研究演習(ゼミ活動)へのいきなり
6. スポーツ心理学
7. スポーツ&イベントマネジメント
8. スポーツプロモーション
9. 野外活動、地域スポーツ、ジュニア育成
10. プロジェクト活動
11. プロジェクト活動の運営
12. プロジェクト活動の運営
13. プロジェクト活動の運営
14. プロジェクト活動の運営
15. まとめ

授業形態(アクティブラーニング)

- | | |
|--|--|
| <input type="radio"/> ア:PBL(課題解決型学習) | イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) |
| <input type="radio"/> ウ:ディスカッション、ディベート | エ:グループワーク |
| <input type="radio"/> オ:プレゼンテーション | カ:実習、フィールドワーク |
- キ:その他(A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習: (2時間程度)
レポート、グラフ作成、プレゼンテーション資料作成ではPCを使用するため、ワード、エクセル、パワーポイントなどの使用方法を理解しておく。

復習: (2時間程度)
各演習の学習内容や教員からのアドバイスを参考に、要点をまとめておく。
同じグループの学生とイベント内容について話し合い、次の授業までに改善案を抽出しておく。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

パソコンの基礎的な操作ができる、人と円滑なコミュニケーションができるなど、本学学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・基礎能力(豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持つコミュニケーション)を身につけることができるところから、本学のディプロマポリシーの達成に大きく貢献できる科目である。
本学が通して、子どもから高齢者までの広範囲にわたる健康分野に関する基礎知識を身につけ、健康・スポーツ関連産業の理解を深めることができることから、本学科のディプロマポリシーの達成に大きく貢献できる科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

responやformsなどを使用し、学生間とのコミュニケーションツールとして活用する。

実務経験の有無及び活用

なし

備考

--	--	--	--	--